

県民講演会

（居安思危）大震災の教訓を山陰に活かせ

—科学と神話にみる災害への備え—

第1部 18:05～19:00

「出雲神話『ヤマタノオロチ』と斐伊川の自然災害の関わり」

講師：NPO 法人出雲学研究所理事長

藤岡大拙（ふじおか だいせつ）

「島根の歴史の語り部（かたりべ）」として県内外で活動中。これまで県の教育文化活動に携わり、島根県立女子短期大学学長などを経て、現在、NPO 法人出雲学研究所理事長をはじめ、荒神谷博物館館長、神々の国しまねアドバイザー等、出雲文化・歴史の普及活動に取り組む。著書に『出雲路の魅力』『神々と歩く出雲神話』等多数。



第2部 19:00～19:55

「内陸直下地震の強震動予測と地震防災」

講師：京都大学防災研究所副所長・教授

岩田知孝（いわた ともたか）

京都大学理学博士。京都大学防災研究所助手を経て、2004 年より現職。専門は強震動地震学。断層破壊過程、表層地質が地震動に与える影響、長周期地震動についての研究を行っている。文部科学省地震調査研究推進本部の委員会委員、国や地方自治体の地震被害想定に関する委員会委員等を務める。平成 22 年～平成 24 年には島根県地震被害想定調査検討委員会委員を務めた。



平成 25 年 8 月 28 日（水） 18:00～20:00

（受付・入場 17:30～）

会場：島根県民会館 1F 中ホール（松江市殿町 158）

参加費：無料（どなたでも自由に参加いただけます。）

申込み：不要（当日直接会場へお越しください。）

定員：先着 350 名

お問合せ先

（公社）日本地すべり学会 第 52 回研究発表会及び現地見学会実行委員会 県民講演会担当事務局
〒690-8504 松江市西川津町 1060
島根大学大学院総合理工学研究科 志比利秀
TEL：0852-32-6199 FAX：0852-32-6469
E-mail：shibi@riko.shimane-u.ac.jp

参加費無料

主催：（公社）日本地すべり学会

後援：島根県

(居安思危) 大震災の教訓を山陰に活かす ― 科学と神話にみる災害への備え ―のご案内

安きに居りて危きを思う。あの未曾有の被害をもたらした東日本大震災の影響を直接的に受けなかった山陰では、日々の平穏な暮らしのなか、自然災害に対する危機意識が薄れつつあるのではないかと危惧しております。しかしながら、ここ松江でも、南海トラフに起因する地震や都市直下型地震が発生すれば、また近年頻繁するゲリラ豪雨などはこの地域の地形的な特徴から、我々の生活に多大な被害をもたらす可能性があります。平穏無事な今だからこそ、じっくりと自然災害について考えてみるのはいかがでしょうか？

(公社) 日本地すべり学会では毎年「研究発表会」を開催していますが、今年は8月28日～31日に島根県松江市で行います。当学会では社会貢献の一環として県民の皆様の防災意識向上を目的として、研究発表会に先立ち講演会を行います。

第1部では、県内外にて出雲学の普及に尽力されている藤岡大拙氏に、出雲神話にみる人と自然災害とのかかわりについて講演いただきます。第2部では、島根県地震被害想定調査検討委員会委員も務められた岩田知孝先生に地震発生の仕組みから揺れの予測に至るまでの話をわかりやすく講演いただきます。

私たちの暮らす山陰地方もたびたび洪水・土砂災害、地震災害など様々な自然災害に見舞われています。このような環境下では、地域の皆様も災害について正しく理解し、一人ひとりが防災意識を継続して持ち続けていくことが大切です。本講演会は、このような防災意識を啓発するうえで、皆様にお役立ていただけるものと思います。多くの皆様の参加をお待ちしております。

— 講演概要 —

第1部「出雲神話『ヤマタノオロチ』と斐伊川の自然災害の関わり」(藤岡 大拙 氏)

『古事記』『日本書紀』は、ともに八世紀前半、奈良時代の朝廷が、この国の成り立ちを整理しておこうとまとめた書物で、日本の国土を創世した神々の物語に始まり、天上界の神々の話、天上界を追放されたスサノオの話、オオクニヌシの話へと続き、やがて天皇の話へととなります。特に、『古事記』神代巻(神々の物語)の三分の一が、出雲地方を舞台にしたお話、つまり出雲神話なのです。

その出雲神話の代表の1つ「ヤマタノオロチ」は、高天原を追放されたスサノオノミコトが、出雲の国の斐伊川の上流に住むヤマタノオロチを退治し、イナタヒメ(クシイナダヒメ)を救うという物語です。

ヤマタノオロチは、何を象徴しているのでしょうか。昔から言われてきた一般的な説は、「オロチ=斐伊川説」です。頭が八つ尾が八つというのは、斐伊川が支流を集めて流れくぐる姿。オロチの背中に木が生えているというのは、両岸から川を覆うように生えている木々。イナタヒメやその両親は、流域農民の代表。それを食らうとは、流域の田畑や農民を洪水によって飲み込んでしまうこと。スサノオがオロチを退治したというのは、斐伊川の治水に成功し、人民を救ったことをさしている、とも言われています。出雲神話「ヤマタノオロチ」と斐伊川の自然災害の関わりについてお話をします。

第2部「内陸直下地震の強震動予測と地震防災」(岩田 知孝 氏)

2011年の東日本大震災では、甚大な津波被害をうけたため、国は津波に対しての危険を国民に強く知らせています。その前を考えると、1995年阪神・淡路大震災以降、日本では毎年のように内陸での地震被害を受けていました。島根県も2000年鳥取県西部地震で揺らされ、被害をうけました。

内陸の地震は、プレート境界で起きる地震に比べて規模は小さいですが、震源域が足下といった近距離にあるために狭い範囲に極めて強い揺れを与えます。活断層はこういった地震が繰り返し起きることで残った「傷跡」と考えられ、活断層の特徴を調べることが地震被害の軽減の第一歩と考えられます。しかしながら、どこを調査してもよいというものでもないこと、また繰り返し間隔が何千年といった、人間の感覚からすると遙かに長いこと、さらには「傷跡」がはっきりしないところで起きる地震もあることから、活断層の活動評価やその活断層が動いた場合の揺れの予測は、チャレンジングな課題です。同時に、地震による建物や地盤の災害を「シミュレーション」しておくことは、専門家や自治体が対策をするということだけではありません。このようなシミュレーション結果は、住民の皆さんに住んでいるところの危険度情報を知ってもらい、考えてもらうことにつながるため、更新を継続していく必要があります。講演では、地震発生の仕組みから揺れの予測に至るまでの話をできるだけわかりやすくしたいと考えています。